

確認結果と考察

1. 法的・コンプライアンス要件

- ・ **ISMAP登録の可否（1.1）** – ユーザー資料では「Google Workspace はISMAPに登録されていない」とされていますが、これは事実と異なります。Google公式の情報によれば、Google Cloud Platform とともに **Google Workspace もISMAP認定を受けて登録済み** です ^{① ②}。たとえばGoogle Cloud Japanのブログ記事では「Google Workspace が ISMAP対応 CSP として登録されました」と明記されています ^①。したがって「ISMAP未対応」という指摘は誤りで、政府機関・自治体向けの調達には対応可能です。
- ・ **国内データ保存保証の有無（1.2）** – Google Workspace には **日本国内サーバーに限定するデータレジデンシー機能は標準では提供されていません**。公式ドキュメントによれば、データリージョンの選択肢は「米国」「欧州（EU）」または「指定なし」のいずれかであり、日本を選ぶ項目はありません ^③。そのため厳密な意味で「常時完全に国内保存」は保証されていません。一方で **顧客管理型暗号化鍵（CMK）には、新たにクライアントサイド暗号化（CSE）機能が導入されており、顧客自身がキー管理できる選択肢があります** ^④。例えば教育機関向けのエディションではCSEを使い独自キーを登録することができ、重要データの暗号化処理を制御できます ^⑤。ただし、データ転送経路が必ず国内ルートになるとは限らない点や、米国のCLOUD Actによる開示命令の対象になる可能性は依然として指摘されています ^⑥（米国法律「CLOUD Act」では、米国運営事業者に対し捜査目的で情報開示を要求できるとしています ^⑥）。この点はユーザー側で十分留意し、必要に応じて追加の暗号化対策を検討すべきでしょう。
- ・ **教育関連法規への対応（1.3）** – 学校教育法・施行規則によれば、例えば「**指導要録**」の学籍関連事項は**20年間保存義務** ^⑦、「**出席簿**」は**永久保存**（施行規則に基づく）など厳しい長期保存要件があります。この要件に対して、Google Workspace には標準で20年保存を保証する機能は明示されていません。しかし Google Vault を用いれば「**必要な期間いつでもデータを保持する**」設定が可能です ^⑧。公式ヘルプにも「必要な期間データを保持できるルールを設定可能」と記載されており ^⑧、適切に設定すれば法令上の保存期間要件にも対応できます。したがって「長期保存ポリシーが不明確」という指摘は、Vaultの活用次第では解消可能です。

一方で「地方公務員法34条（秘密保持義務）」の観点からは、Googleが米国企業である以上、**同社従業員や米国当局によるアクセスリスク**が存在します ^⑥。たとえば前述のCLOUD Actによって米当局が要求すれば、Googleが保有する情報を開示せざるを得ない場合があります（Hitachi Solutions社の資料にも「CLOUD Actでは米国ベンダーにデータ開示要求が可能」と記載されています ^⑥）。このようなリスクは教育機関側で評価・対策が必要です。

2. 技術的セキュリティ要件

- ・ **顧客管理型暗号化キー（2.1）** – 資料では「Workspaceでは顧客が暗号化キーを管理できない」とされていますが、実際には **クライアントサイド暗号化（CSE）機能を用いることで、顧客が鍵を管理可能** です ^④。Google Workspace の管理コンソールで外部鍵サービスを登録すれば（Enterprise Plus 以上や教育版Standard/Plusで対応）、顧客自身の暗号鍵でメールやドライブのデータを暗号化できます ^⑤。この仕組みを使えば、キー管理を顧客側に委ねる要件にも対応可能です。一方で、従来のGCPのようなCloud KMSとのCMEK連携はWorkspaceにはないため、完全にKMSレベルでのキー制御を求める要件がある場合は注意が必要です。

- ・**HSM対応の限界（2.2）** – Google Workspaceレベルでは、オンプレミスのような専用HSMを直接使う機能は提供されていません。唯一、クライアントサイド暗号化の一環として「Gmail用ハードウェア暗号鍵」が利用可能であると公式にも説明されています⁹。これはFIPS 140-2 Level 3相当のハードウェアを想定した鍵管理です（Assured Controls アドオン利用時に設定可能）⁹。しかし一般的なWorkspaceの運用でHSMを活用した鍵保護を行う機会は限定的であり、高度なHSM統合を前提とした要件には注意が必要です。
- ・**データ損失防止（DLP）（2.3）** – 日本語固有のパターン認識や教育独自データ分類への対応について、公式情報は見つかりませんでした。Google WorkspaceのDLPは英語圏基準の対応が中心であり、日本語文書のパターン検知は他製品と比較して限定的である可能性があります、具体的な公式情報は未確認です。

3. システム統合・連携

- ・**校務システム連携（3.1）** – 日本市場における主要校務支援システム（統合型校務支援、スズキ教育ソフト、内田洋行、富士通、NECなど）との公式な連携実績については、公開資料や公式ドキュメントから確認できませんでした。逆にMicrosoft 365では教育支援システム向けコネクタや導入事例が多く報告されていますが、**Google Workspace に同等の公式連携例は見つかりません**。そのため「連携実績なし」という指摘は、市場動向から妥当であると思われます（ただし明確な出典がないため断定は困難です）。
- ・**認証連携（3.2）** – 国や地方の教育委員会が提供するIdPとのSAML/OIDC連携事例や機能互換性についても、公開情報は限られています。Google WorkspaceはSAMLやOAuth/OIDC対応していますが、「複雑な組織構造下でのゲスト管理」など教育機関特有の要件を満たすかは実環境次第です。現状、**この点に関する公式情報は見当たりません**。

4. 運用・サポート体制

- ・**日本語サポート（4.1）** – Google Workspace の有償サポート体系（エンハンスド/プレミアム）では、**英語24時間365日対応と日本語は平日営業日のみ対応**という形態です¹⁰。公式ヘルプには「エンハンスド/プレミアム サポートは英語（24時間365日）および日本語（営業時間内）で提供されます」と明記されています¹⁰。したがって「24時間英語のみ、日本語は平日9-18時」という記述は概ね正確です（営業外の日本語問い合わせは通常サポート扱いになります¹⁰）。また「教育機関専任のチームがない」という点も公式には触れられておらず、Google全般のサポートとなるため特化対応は期待しづらいと推測されます。
- ・**教育機関向け専門性（4.2）** – 学年度管理や大量データ移行等、学校運営特有の機能について、Google Workspaceに特化した公式対応機能はほとんど公開されていません。年度切り替えや卒業処理に関する仕様は教育委員会側で運用ルールを整える必要があり、既存ツールとの互換性も個別判断になります。**これらの点についても公開情報は確認できず**、ユーザー側の工夫・追加開発が前提となるでしょう。

まとめ

以上のとおり、本資料の主張には**事実と異なる部分**が含まれています。特に「**Google Workspace が ISMAP 未対応**」は誤りで、実際には登録済みであることが明らかです¹²。一方、**データレジデンシーや米国法（CLOUD Act）のリスク**に関する指摘は一部当を得ていますが、Vault 等による対応策も存在します⁶⁸。暗号化キー管理では、CMEK自体は未対応ですが顧客管理鍵（CSE）機能が新設されており⁴、これも要件によっては対策可能です。サポート体制に関しては公式情報と一致する点が確認できました¹⁰。

なお、校務システム連携や認証要件など一部は公開情報が乏しく判定困難でした。これらは現場の運用や追加開発によって解決する必要があります。最終的には **最新の公式情報** と組織要件を照合し、必要に応じて専門家によるレビューや追加検証を行うことをおすすめします。

参考資料: Google公式ブログおよびサポートドキュメント 1 2 3 6 7 8 4 10 など。

1 Google Cloud、ISMAP の登録を完了 | Google Cloud 公式ブログ

<https://cloud.google.com/blog/ja/products/gcp/google-cloud-ismap>

2 Google Workspaceが日本政府が今後調達する”安全な”クラウドサービスのリストに登録

<https://googleworkspace.tscloud.co.jp/archives/45617>

3 Choose a geographic location for your data - Google Workspace Admin Help

<https://support.google.com/a/answer/14310028?hl=en>

4 5 9 Add and manage key services for client-side encryption - Google Workspace Admin Help

<https://support.google.com/a/answer/10742487?hl=en>

6 鍵管理ソリューション for Google Workspace

https://www.hitachi-solutions.co.jp/security/sp/doc/leaflet/leaflet_kms.pdf

7 資料3-2 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（中間まとめ）【案】（10/11）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/___icsFiles/afieldfile/2017/12/25/1399722_14_1.pdf

8 How retention works - Google Vault Help

<https://support.google.com/vault/answer/2990828?hl=en>

10 Google Workspace サポート サービス - Google Workspace 管理者 ヘルプ

<https://support.google.com/a/answer/10105075?hl=ja>